

モデル事業名	美しい山形・最上川フォーラムによる地域活性化プロジェクト支援事業
活動団体名	美しい山形・最上川フォーラム
ホームページ	<a href="http://www.mogamigawa.gr.jp/">http://www.mogamigawa.gr.jp/</a>
所属/担当者名	事務局 渡邊 陽子
連絡先	023-666-3737 yw-mogamigawa@samba.ocn.ne.jp
活動地域	山形県白鷹町

### ● 活動地域の概要

白鷹町：世帯数 4,499 戸、人口 16,331 人（平成 17 年度国勢調査）、高齢化率 29.9%

下山地区：世帯数 173 戸、人口 633 人

大瀬・世帯数 20 戸、人口 63 人（平成 17 年度国勢調査）※世帯数 60 戸以上、人口 327 人（昭和 40 年事実上無人となった平田集落と合わせて）だった 40 年前と比べて世帯数 2/3・人口 4/5 減少

65 歳以上の高齢人口が占める割合 50.0%（平成 20 年度）、20～24 歳および 35～39 歳は 0%

公共の交通機関 町中心部への定期バス（平日 4 便/日）、デマンドタクシー（平日 7 便/日、500 円/回）

佐野原：世帯数 31 戸、人口 115 人、高齢化率 34.8% 下山：世帯数 66 戸、人口 235 人、高齢化率 32.8%

菫蒲：世帯数 56 戸、人口 220 人、高齢化率 30.0% ※世帯数および人口については平成 17 年度国勢調査による



【位置図：白鷹町】



【位置図：川下地区】

位置図参考 URL

<http://map.yahoo.co.jp/>

<http://www.mapion.co.jp/map/admi06.html>

### ● 活動地域の課題

白鷹町、特に下山地区「大瀬集落」では、高齢化、世帯数・人口の減少に伴い、敬老会や運動会等の住民が顔を合わせる機会に加え、防災対策等地域の課題を共有し解決に向けて話し合う機会が減少している。白鷹町のほぼ北端に位置する大瀬を活性化させることは、町全体の活性化にもつながると考えられるが、そのためにはまず大瀬の近隣集落におけるコミュニティの活性化が不可欠である。20 年度、大瀬において地域点検のワークショップを行った結果、地域の既存の資源を磨いていくことで合意した。21 年度、参加していた「下山集落」の住民の間にも、地域が元気に存続するためには、住民が集う活動を通じコミュニティの活性化を図らなければならないとの認識が高まり、活動。さらに 22 年度にはこれらの取り組みに参加してきた住民と仲間が結集し、新たな団体を設立・活動を始めた。

### ● 活動の内容

・平成 20 年度

「大瀬も先進地に学べプロジェクト」(9 月) … 「四ヶ村」、「大蔵村肘折温泉」の取り組みを視察。

「大瀬が健康でいきいきプロジェクト」(10 月) … 「大瀬のお宝」をもとに提案を出し合い、その進め方を整理。

「大瀬を桜の新名所にしようプロジェクト」(12 月) … 植樹・手入れを実施。記念講話、住民との餅つきも実施。

「まとめの会」(2 月) … 上記プロジェクト(ワークショップ)で話し合ってきたことの総括。

「おおせ博覧会」(3 月) 手作り映画放映、写真展、地区の歴史講演、「しらたか美食売店」での鍋・餅等の販売を実施。

・平成 21 年度

(1) 大瀬での平成 20 年度活動からの発展的な取り組み

「住民と行政が協力したらすぐできる」と、祭りを復活させる計画をしたが、神社に松の木が倒れ中止。縁起物「身替り稲荷の松」として、その松で「通行手形」を手作り。広域観光推進協議会実施の「レトロバスツアー」参加者に配布。

(2) 川下地区全体での地域点検ワークショップ

「しもやま桜街道による地域づくり研修・植樹会」(11 月) … 地域点検ウォーキング、桜植樹・手入れ研修。

「しもやま桜街道地域づくり祝賀会」(12 月) … 防災セミナー、歴史研修・地域点検会、子ども落語、餅つき(収穫祭)、愛称発表会、「最上川慕情」をうたう集い。

「ボランティア組織立上げの会」(1 月) … ボランティアが集まり、今後の活動計画を確認。

・平成 22 年度

(1) 黒滝会設立

最上川の名勝・黒滝の文化と景観を守り活力あるふる里の発展に楽しみながら奉仕することを目的とし 21 年 3 月に設立、当初 33 人のメンバーは現在 40 人に増えた。

「白鷹学講座第3弾（主催：教育委員会ほか）」（8月）…「最上川舟運文化と人々の祈り」黒滝会会員を講師に川下地区を歩く。25人の参加者に最上川とともに育まれてきた暮らしを案内。昼食は地元お母さんたちの手作り。

「クリーンアップ・活動報告会と懇親会」（8月）…活動場所となる最上川沿いフットパスを当フォーラム事業のクリーンアップに参加しゴミ拾いを行った。報告会では活動状況、今後の課題のフットパス延長等について話し合い。

「宝の掘り起こし」（随時）…文化財へのアプローチ（蔵の整理）、冊子作成など

## （2）しらたかサイエンスクラブ設立

黒滝会を母体とした青少年対象の科学団体。自然への思いやりと科学的探究心を養い、青少年の健全育成をはかることを目的。地元の植物・動物と触れあう自然観察会などを開催。団員説明会 8月22日

「第1回しらたかサイエンスクラブ」（9月）秋のフォトビンゴをテーマに野外で動植物を観察。

「第2回」（11月）野菜の科学「第3回」（1月）（予定）おもしろ科学実験

「湿原の整備」（随時）昔から残る池を整備し、ビオトープとして活用。（あらとのとんぼ池他）計3箇所を整備していく。

## （3）川下地区の取り組み

「下山お花見会」（4月）21年度植樹した桜で花見会。今後の取り組みについても話合った。

「大瀬収穫感謝祭と敬老会」（10月）集落支援員が段取りし、開催。大黒舞や餅の振る舞いなどを行い、賑わった。

「大瀬鉱泉情報」集落支援員が地区の鉱泉についてブログにアップしお宝として紹介。大学から問い合わせがあった。

その他桜・フットパス維持管理、公園の手作り看板設置（下山）などをボランティア会員にて行った。

## ● 活動の成果

・平成20年度 ワークショップで地域の歴史的な行事・史跡等で廃れているもの、生活における不便な点や地域の魅力を集落みんなで歩き抽出・確認。次に諸問題の解決方法を整理・区分した。「住民同士が集まる機会の減少」については、ワークショップを重ねることで地域コミュニティの活性化へとつながった。この結果、集落をさらに発展させるのは難しいかもしれないが、住民が助け合い生き生きと暮らし、地域の活気につながることの重要性が分かってきた。自分たちで解決できそうなものは話し合いをし、行政の支援も得ながら具体的な方策を探ることで合意。取り組みを当ホームページ等で周知、地域の魅力発信・住民の士気高揚に寄与している。さらに近隣住民の間でも、既存の桜、フットパス（小路）、道の駅、「つぶて石」等地域の宝を整備・活用し地域を元気にしようという気運が醸成された。

・平成21年度 20年度の取り組みから広がった近隣地区での活動は、「地域コミュニティの活性化」という明確な目的のもと桜の植樹を中心とした事業を実施。桜をどこに植えるか、などの検討のため住民が歩いて地域点検をし、改めて地域を知るきっかけとなった。活動や祝賀会での参加地域住民の人数は昨今の中では一番の盛況ぶりであり、大成功を取めた。植栽した桜の施肥・剪定・防除等の手入れ作業を通じ、最上川周辺の景観整備・活性化を担うボランティア組織を立上げた。

・平成22年度 昨年度までの取り組みに参加していた人々が中心となり、地域の歴史・文化・自然をとりこんだ活動を展開。地域住民のお宝の洗い出しは地域性等も考慮し、様子を見ながら緩やかに取り組んでいる。しらたかサイエンスクラブにおいては、環境教育という観点で進めており、「地域の先生」の確保や子どもたちの交換留学の開催という長期的展望も視野にいれている。整備したビオトープには、子どものみならず大人や町外から来た人々が足を止め見入っている姿が見られ、町のPRにもなっている。20・21年度から続いている取り組みは、大規模でないが、地域のニーズに合わせ集落支援員が開催の段取りなどをし、活動を継続している。



← 大瀬応援団との餅つき (20・12)



→ 桜の研修会 (21・11)  
上：白鷹学(22・8) 下：サイエンスクラブ(22・9)

## ● 今後の課題及び展望

・課題：現在の取り組みを、将来も町や近隣の県等に住む若い世代にしっかりと引き継ぐために、住民のみなさんの士気を高いままに保つことや、地区内及び他地域の若い世代との交流の機会を創出・維持することが必要。コミュニティ創生の中心となってきた桜の手入れについては、成長とともに新たな知識を取り入れなければならない。また団体継続を維持するために資金の確保や町民へのPRが必要となる。さらに子供達の参加を拡大するために教育委員会・教員とのタイアップなどを検討していく。

・展望：上記課題を解決するため、美しい山形・最上川フォーラムでは引き続き活動等をホームページなどで広報し、川下地区と他地域の住民交流の場として桜手入れ研修会などを住民からの要望に沿って進めていく。また、文化継承および環境教育につながる取り組みへも同じく広報・支援の検討や助成についての情報を提供し、活動の継続と周辺へのさらなる波及効果を狙う。